

## SY6-2

## アナフィラキシー：原因を見つけ、正しく教育するには？

高瀬 貴文

国立病院機構三重病院 アレルギー科

アナフィラキシーとは、アレルゲン等の侵入により、複数臓器に全身性にアレルギー症状が想起され、生命に危機を与える過敏反応のことである。アナフィラキシーは近年増加傾向といわれており、現在0.3－5.1%程度の生涯有病率とされている。またアナフィラキシーの再発率は、26.5－54.0%とされており、多くの方が再発を経験するとも言われている。過度にアレルゲンを回避したとしても、アナフィラキシーを防ぐことは難しいとされ、また過度な制限は患者／家族に大きな負担となる。またアナフィラキシー歴のある人を預かる学校や保育園／幼稚園では、「予期せぬ」アナフィラキシーが起り、たとえまれであってもアナフィラキシーを避けては通れない。こうした状況のなかで、患者ならびに患者にかかわるすべての人が、アナフィラキシーを正しく理解し、緊急事態に対処できる体制・知識を習得すべきであり、またその診断管理に関する知識の普及が必要である。今回のシンポジウムでは、アナフィラキシーについての基本的知識と対応のポイントを概説し、アナフィラキシーの原因を探しにいく手立てを提供したい。また正しく教育するために、アナフィラキシーの治療の第一選択薬であるエピペン<sup>®</sup>の使用について、またエピペン<sup>®</sup>を使用する人が心配されるさまざまなことについても解説し、より安心してエピペン<sup>®</sup>の使用ができる助けとしたい。